

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	家庭総合①	前期2単位	6	7	4

◇科目の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に修得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。人の一生と家族・家庭。子どもの発達と保育・福祉。高齢者の生活と福祉。衣食住の科学と文化。消費生活と資源・環境。

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートは、No.1 (提出締切 5/11) より順次送付してくること。ただし No.3 レポートは、講演会後に提出してよい。 No.3 の提出締め切りは **6月10日** です (厳守)

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	4/25・26	No.1	自分らしい人生をつくる	12～25
2	5/2・3	No.2	家族とかかわって生きる	24～31
3 4	5/16・17	No.3	講演会 (消費生活について)	実習プリント (No.3①)
5	6/27・28	No.4	経済生活を営む	94～121
6	7/18・19	No.5	これからの家庭生活と社会	32～37
7	7/25・26	No.6	高齢社会を生きる	68～83

◇テスト範囲

前期中間	実施しない	前期期末	レポート No.1～6 <u>ただし、レポート No.3 が 6/10 までに提出されていることを受験の条件とする。</u>
------	-------	------	--

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇使用教科書・資料

東京書籍 家庭総合—自立・共生・創造—

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	家庭総合②	後期2単位	6	7	4

◇科目の目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に修得し、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。人の一生と家族・家庭。子どもの発達と保育・福祉。高齢者の生活と福祉。衣食住の科学と文化。消費生活と資源・環境。

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。ただし No.3 の実習レポートは実習後に提出してよい。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	10/ 3・ 4	No. 1	食生活をつくる N01	130～149
2	10/17・18	No. 2	食生活をつくる N02	150～181
3	10/24・25	No. 3	講演会（児童文化について）	実習プリント
4	12/ 5・ 6	No. 4	子どもと共に育つ	42～71
5	12/12・13	No. 5	衣生活をつくる	184～221
6	1/ 9・10	No. 6	住生活をつくる	222～247

◇テスト範囲

後期中間	実施しない	後期期末	レポート No. 1, 2, 4～6
------	-------	------	--------------------

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。

◇使用教科書

東京書籍 家庭総合－自立・共生・創造－

教科名	科目名	単位数	レポート	開講	必面接数
家庭科	フードデザイン	2単位	6枚	8時間	4時間

◇科目の目標

栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、健康な食生活を営むことのできる能力と態度を育てる。

◇科目の概要

次にあげる各項目について学習する。  
 食事の意義と役割。食物と栄養、健康。食生活の充実向上。等

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習しておくことがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ 学んだことを、日常の食生活にいかすよう努力する。

◇履修にあたっての留意点

レポートはNo.1より順番に送付してくること。(ただし、No6は実習終了後できるだけ早く提出する)  
 面接については、必要面接時数4時間のうち必ず実習に1回、2時間出席すること。

◇スクーリング計画

回	開講月日 前期	回	開講月日 後期	レポ ー ト	授 業 内 容	教科書
1	4/25・26	1	10/10・11	NO.1 NO.2	食事の意義と役割・食をとりまく現状、栄養素の役割・種類とはたらきⅠ	P.6～ 27
2	5/9・10	2	10/17・18	NO.2 NO.3	栄養素の種類とはたらきⅡ・消化と吸収 食事摂取基準と食事計画・ライフステージと栄養計画	P.28～ 39 P.40～ 54
3	5/30・5/31	3	11/7・8	NO.3 NO.4	食品の特徴Ⅰ・食品の特徴Ⅱ 表示・安全	P.54～ 64 P.65～ 92
8	7/25・26	4	12/5・6	NO.5	調理の基本・料理様式・まとめ	P.94～129
4 5 6 7	6/27・28 7/11・12	5 6 7 8	12/19・20 1/16・17	NO.6	調理実習（調理実習の記録）	別紙

◇テスト範囲

前期中間	実施しない	前期期末	レポート1・2・3・4・5・6
------	-------	------	-----------------

◇成績評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する

◇使用教科書

実教出版 フードデザイン

教科名	科目名	単位数	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
家庭科	子どもの発達と保育	通年4単位	12	12	8

◇科目の目標

乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。

◇科目の概要

子どもの権利条約と児童福祉。子どもの発達と保育・福祉。児童文化等

◇学習の進め方

- ① 教科書をよく読み、面接の前までに予習してくることがのぞましい。
- ② 面接時に配付する資料等も、レポート学習等をすすめる上での参考にすること。
- ③ レポート、教科書の内容を学ぶことを糸口として、広く社会を見る目を養ってほしい。

◇履修にあたっての留意点

原則として、レポートはNo.1より順番に送付してくること。ただしNO.12 実習レポートは実習後に提出してよい。面接については必要面接時数8回のうち必ず実習に1回（2時間）に出席すること。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書等ページ
1	5 / 2、3	1	発達と乳幼児期の意義	P 2~3 8~17
		2	子どもの発達	P 20~28 配布資料
2	5 / 16、17	2	子どもの発達	P 20~28
		3	乳幼児の生理的特徴・精神発達	P 29~43
3	5 / 30、31	4	乳幼児の精神発達	P 44~55
		5	生活と養護	P 58~77
4・5	7 / 4、5	12	調理実習「おやつ作り」	実習プリント
6	7 / 18、19	5	生活と養護	P 58~77
		6	生活と養護 II	P 68~83
7・8	10 / 10、11	7	生活習慣・健康管理・事故防止	P84~99
9	10 / 24、25	12	調理実習「おやつ作り」	実習プリント
10	12 / 5、6	8	保育の意義	P 102~113
11	12 / 12、13	9	事故予防・保育の必要性	P 85~122
12	1 / 9、10	10	子どもの福祉・子育て支援	P 124~141
		11	まとめ（学習を終えて）	

◇テスト範囲

前期期末	レポートNo.1~6	後期期末	レポートNo.7~10
------	------------	------	-------------

◇評価の方法

テストの点数、レポートの評価、面接出席時数を総合的に評価する。